

# 1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2470501939		
法人名	合資会社 三重福祉会		
事業所名	グループホーム白山		
所在地	三重県津市白山町南出954番地		
自己評価作成日	令和5年11月18日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigovsvoCd=2470501939-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigovsvoCd=2470501939-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和5年12月13日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>当事業所では、職員が運営上の理念をよく理解し職員間の意思疎通がスムーズになされ、和気あいあいとした雰囲気が感じられる。それが利用者への対応や交流によく活かされているようで、利用者にとって安心、安全に暮らせる事業所になっていると思われる。また職員間の意思疎通のよさが職員の定着に結びついているのか、職員の退職や異動が少なく業務上の連携が一層円滑にされている。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は三重福祉社会のものと、職員全員で考えた白山苑のものがある。各ユニットに掲示している。	地域と共同しながら思いやりと明るい笑顔で過ごせるよう、職員と相談し「地域の人と協力し、思いやりで、ともに明るく暮らせる」を理念とした。職員の多くは地元採用で馴染んでいるが、利用者の高齢化、重度化で外出困難になっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染により、地域の行事参加は出来ていない。利用者の散歩で地域の方々との対話の機会を作るようにしている。	自治会員も高齢化し、コロナ禍の影響で行事が少なくなっている。利用者は散歩に出ても歩く距離が短くなり、交流の場が少なくなっている。しかし地域からは野菜等の差し入れが今も続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の校外学習やボランティア活動の受け入れを通じて、地域での認知症への理解を働きかけたい。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、第2水曜日に開催してアドバイスをいただいている。情報交換を行っている。家族に案内はしているが、都合が付かず出席されないことが多いが、事前に要望などを聞き取り報告することがある。	コロナ禍でも昨年、本年と続けて定期的に開催している。事業所の取り組み状況で入退去、ヒヤリハットや事故、所内イベント等を報告し、参加者と意見交換をして事業所運営に活かすようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での相談だけでなく援護課の担当者に相談することもある。	介護保険の運営上の問題があれば白山支所で相談している。介護認定に関してはケアマネや看護師が対応している。生活保護利用者が5件あるが、主として法人本部が対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1回各ユニットの職員が集まって虐待、身体拘束に関する話し合いをしています。	身体拘束防止委員会は本部にあり毎月の代表者会議で議論している。会議資料も本部が保管している。事業所の職員会議で議論をする時が2カ月ごとにあり、本部役員も参加している。職員アンケートや意見交換によって介護の現状や課題を出し合い、話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝の申し送り時やカンファレンスの時に、虐待防止について話し合いをしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	職場会議の時に、権利擁護後見人制度について話し合っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に重要事項の説明を十分に行い疑問点や不安等を解し、また納得してから契約していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱も設置し意見や要望等を入れてもらえるようにしている。意見や要望等改善できるものがあれば改善している。	昨年まで窓越し面会だったが、本年度は感染予防して居室面会にしている。日常は、北海道の家族も含め全員に必要な事項を電話連絡や手紙を出し要望、意見も聞いている。しかし家族疎遠だったり、手紙の意味が理解できない家族もあり、苦労している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見箱を設置しており、匿名で意見を投函できるようにしている。内容に関し代表者、管理者、職員で話し合い全員が納得するまで意見を交換している。	毎月の職員会議で必要な事項を話し合っているが、職員アンケートを適宜して要望、意見を聞いている。アンケートにはいろいろな意見が出ている。交代勤務のため、全員出席できるように、同じ会議を2回している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者会議や苑会議で意見を聞き職場環境の整備に努めている。必要に応じて個人的に相談できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑としては、介護福祉士の勉強講習に参加し受験していただける様に、介護福祉士の講習のパンフレットを配布して受講、受験を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月の代表者会議で情報交換を行っている。グループ内の他の事業所と交流し、参考になるような事柄などを相談できる環境にある。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学の際に家族や本人から生活環境や希望することを詳しく聞き取りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望を聞き、入居してからもこまめに様子を報告するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の身体、精神状況を詳しく聞き取り、家族の希望も確認した上で状況に応じた介護ができる様に話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の考えだけでなく、本人に意欲があるか確認し、清掃など出来る事は職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子をこまめに行い、家族の考えや希望を聞き取り、面会時に話し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と通院で外出する以外できるだけ遠方の外出は控えて頂く様に家族に頼んでいます。	家が消失したり、嫁姑問題がある等事情も複雑で、皆が馴染みを思うとは言えない。自宅までドライブしたが、車中見にした。コロナが収まったとはいえ、家族との外出範囲を限定してもらっている。地元の理美容院が2カ月ごとに来訪している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように職員が声掛けしてゲームや塗り絵に参加したり、少し昔の歌を歌って孤立しないように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入居されても、その後様子を伺ったり、必要に応じて相談させていただいています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者、家族からの希望や意向をプラン作成前に伺いプランに記入している。	認知度が進んだり体調不十分さの進行で、やりたいこととやれることがはっきりせず、気持ちや本音がつかみにくくなっているが、家族の話や本人の何気ない仕様に注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込み時、家族と面談し、フェースシートに記載している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者、家族と面談時、心身状態を伺ったり、介護保険の認定に関わる調査票、主治医の意見書等、資料を前もっていたき、アセスメント表に記載している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングユニット会議を行い、必要時アセスメントを行う。またケアチェック表により、評価を行いケアプランを作成する。	毎月ユニット毎のカンファレンスでモニタリング、アセスメントチェックをし、本人、家族の要望等を考慮し、6か月ごとにケアプランをたてている。本人ニーズが掴みにくい、事業所任せの家族もいて、職員の意見はさまざまである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに従い介護を行った事を個別に記録している。また、朝、夕の申し送り時に情報の共有をしています。3ヶ月に1回評価を行い、6ヶ月毎にケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ病院受診への送迎等には付き添い施設として、出来る限りのことはしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの菓子販売所に利用者様と一緒に見に行きました。ボランティアの歌や踊り等はコロナ等で控えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度かかりつけのクリニックから往診に来てもらっている。また、利用者の身体状況に変化が見られた場合、家族に連絡して受診往診等の承諾を得てから診察してもらっている。	協力医は2週間毎の訪問診療であり、利用者全員のかかりつけ医になっている。来訪時は診察の他、予防接種もしている。他の専門医に受診する場合は協力医が紹介状を書いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者のバイタルチェック表に記載してある情報をかかりつけクリニックにFAXで送ったり、往診の時も看護師に再度見てもらって助言してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際、治療経過を家族やケアワーカーと電話で話を聞かせていただいている。また病院に行き看護師やケアワーカーに退院後の相談を行い円滑に退院できる様に配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約前、家族に重度化した場合施設で対応できる事できない事を十分に説明している。終末期に対しての希望を聞き主治医、家族と話し合いをし、他の医療機関に紹介してもらったり、他の介護施設に入居できる様にしている。	入居時の説明で、家族には終末期対応はできないことを理解してもらっている。急迫状態になった際には救急車を呼んでいる。それでも自然な状態で終末を迎えた例はこれまでにあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本年度は1回だけ救急訓練をしています。その他は警報、避難訓練実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	当施設内と近くの竹林まで避難訓練しています。	毎年4月、10月に総合避難訓練をしている。訓練は消防署も参加し、助言、評価を得ている。救命救急訓練もしてもらった。事業所としては、火災と地震を特に注意している。備蓄品は少しずつ残し、順に消費している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室でオムツ交換を行うとき、居室をノックし、ドアを閉めてから、声掛けしてオムツ交換をしている。また、トイレ誘導を行う際には周囲の人にわからないように声掛け等の配慮をしている。	会議の都度、プライバシーと人権の尊重を話し合っている。利用者を”ちゃん”付けしない、意思確認の声掛けをする等に注意している。気を付けていても、うかつなことをする時もあるので注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で服を選んでいただいている。トイレや起床、就寝を自発的にしていただけるように声掛けしたり、また自分で決めていただいてから介助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションに参加したい方は、参加をしていただく、又掃除、散歩、昼寝をしたい方はしていただき、常に利用者の希望や個々のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服は自分で選んでいただく。又、施設に来ていただいた理美容院の方に好きな髪形を自分で言っていたいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食が進む様に料理色どりに気を配っています。食堂の机の下の掃除やお盆拭きもしてもらっています。	日常は業者調理を湯煎して提供し、刻み食等は事業所でしている。朝8時、昼11時30分。夕5時であるが、勤務の都合上どうしてもこの時間になる。行事食（誕生会、ひな祭、Xマス等）は業者を断り、事業所で調理する。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嚥下機能に合わせた食事形態にしている。普通食、全粥、刻み、トロミ（ミキサー食）。水分を取りたがらない方には、食事前にスプーンで水分を少しずつ飲んでもらっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	見守り、介助で歯みがきをしていただいている。就寝時には、義歯を洗浄液につけている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用して個別にトイレの声掛けや、トイレの移動、移乗介助する等の支援をしている。	半自立の利用者が多く、排泄の後始末ができない・忘れる等である。リハビリパンツ使用が多数あり、夜のみがおむつが1名、布パンツは2名である。それでも皆、トイレ排泄するよう誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜類を多くしたりする工夫をしている。水分を多く摂取していただいている。歩ける方は、歩いていただく、体操も参加していただく。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に沿って入浴できる様に準備している。又、入浴拒否があれば入浴する曜日を変えたりしている。	入浴日は週4回（時間は午前中）あるが、誰もが週2回は入浴するよう順番を設定している、要介護者が増えたが、リフトは1ユニットのみ設置してある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時に就寝時間は決めておらず、眠りたい時に寝ていただいたりしている。昼寝をしたい時は自由にしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品情報ファイルがあり、常に職員が確認できるようにしてある。服薬の見守り、服薬の介助、服薬の確認をしている。また、薬の変更は申し送り報告し、様子観察、異常があれば主治医に相談する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じた役割作りをし、台所のお手伝いや、花の水やりをされる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新年の初詣に出かけたりしている。	要介護者が増え、ドライブしても降りられない人もある。外へ出るより室内で廊下を歩いたり、座ってできることで過ごすことが多くなっている。地元神社の初詣でや花見には出かけた。	心身の症状進行により外出困難になっている利用者が増えている状況ではあるが、外部の空気や景色に触れることで利用者の気分転換を促す可能性もあり、より多く外出できるよう今後とも工夫をこらすことに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の依頼があれば、お金を預かり、買い物があれば買ってきている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をしたいとの希望があれば電話をしていただいている。利用者、家族の間で手紙のやり取りもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、バリアフリーになっており、廊下、トイレ、浴室には手すりがついている。	昼間は皆がホールに出てきて、ソファや机の周りでおしゃべりしたり、自分の好きなこと、出来ること等をしている。床暖房はなくエアコンのみであるが、日中は暖かい部屋になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分のフロアにはソファが置いてあり、自由に座って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはTVが置いてある部屋があり、1人でテレビを見て楽しんでおられる。居室は個室になっていてプライバシーが守られている。	ベッド、エアコン、クローゼットは事業所が設置している。各自で必要は日常用品、好みの品等を持ちこんでいて過ごしやすくしている。夏冬の入れ替え用品は事業所の倉庫で預っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各室のドアに名札がかけてあり、トイレや浴室にも分かる様に表札をかけてある。		